

大原草紙

第84号
令和5年7月
夏季号

私の大原ベストポジション



上野町 太田眞素巳
散歩コースにて



川沿いの小径が散歩コースの一つです。最近カジカガエルの綺麗な鳴き声が聞こえます。たまにカワセミやカワガラスが飛び立つこともあり、注目します。大原はまだ里山の自然が残されているといえるのかもしれませんが。植物の相はかなり変化してはいますが。東の丘の上に立つとあるおたくの庭先に、すっきりとした樹が立っていて、いいなと思っています。

おそらくカツラの樹だと思うのですが、清々しさのある魅力的な樹です。その樹形は多くは株立ちをして、すっきりと天に伸びていきます。ちなみに葉の形は丸っこいですね。カツラは私の知る範囲では、来迎院の参道口に入ったところに見ることが出来ます。大原ではありませんが芦生の森にみごとにかぶだちした古木が見られ、とても有名です。よく写真に登場します。里山の風景は人々の暮らしの積み重ねの中で創り上げられてきたものかもしれません。それだけに暮らしの変容と共にあるのでしょうか。たまにこうして立ち止まってスケッチしてみますと新たな発見があるようで、気分がリフレッシュいたします。そんな機会を与えていただいて、ありがとうございました。

京都大原里づくり協会 第22回 通常総会開催

6月10日午後3時から大原文化センター（元J A大原支店跡地）において開催し、令和5年度の事業方針等を議論しました。コロナ禍の時代、注意深く感染防止に努めながら活動の範囲を広げてゆく事とします。この日承認された役員と、新理事会態勢は次のとおりです。

顧問 和田野光彦
顧問 榎並 博一
理事長 西田 誠
副理事長 高倉 哲法
常務理事 上田 壽一
理事 是恒 千鶴子
理事 佐々木春美
理事 藤井 達也
監事 安倍 百合子
監事 山本 克也

顧問の土井孝雄さんがご高齢のため顧問を勇退されました。土井さんは、初代理事長としてNPO法人の立上から、豊富なご経験と、幅広い人間関係を發揮頂き里づくり協会の基礎を固めて戴きました。また、理事の西山安佳里さんはご主人が海外勤務になり同行、渡辺民さんは仕事の関係でそれぞれ退任されました。

総会での主な決定事項

■ コロナ禍の3年間、活動を抑制することから会費を集めないで活動を続けてきましたが、コロナへの対応も第5類になり活動の範囲も徐々に元に戻りつつあること等から、里づくり協会の会費も4年ぶり集めさせていただきます。皆さまのご理解、ご協力をお願い致します。

■ 「大原をつなげる」をコンセプトに大原住民同士をつなげる。
■ 大原の移住者と従来住民とをつなげる。

■ 大原の伝統文化を次の世代につなげる。
■ 大原の景観を未来につなげる。
■ 大原の内と外とをつなげる。

■ 大原内の各種団体と連携しながら進めます。
■ 高齢者の居場所づくりの展開
■ 新規住民との交流

■ 里づくり協会の組織体制の見直し
■ 財政的な基盤の安定を図る
■ 広報紙「大原草紙」発行態勢の充実

協会からのお願い

理事長 西田誠

コロナウイルスへの対処は去る5月より第5類となり、行動制限が緩和されました。私たちも里づくり協会の運営にあたり感染防止に注意を払

いながら活動を回復してまいります。

この3年間に会費を集めずに運営してまいりましたが、今後繰越残金だけではそう長くこの会は維持できません。今年総会で4年ぶりに会費を集めることを提案しご承認いただきました。会員の皆さまには会の運営を夫々支えて頂いています。どうか会費を集めることにご理解と御協力をお願い申し上げます。

会員外の皆さまには、各種活動と大原草紙を通じて里づくり協会の活動にご理解、ご協力を頂いております。会費を集めるこの機会に会員となって支えていただけますようお願いいたします。

集まった会費は、会の運営経費や以下のような取組として活動に使用します。

■ 京都大原学院の卒業生がより広い視野を養うため、海外留学する時、その志を応援するため2名に各5万円支援いたします。

■ 大原各町の伝統的行事等の聴き取り調査。

■ 大原地域のミニコミ紙「大原草紙」を四季報として定期発行。

■ 大原文化センター（旧J A大原支店）の支援。

それぞれの取組みは里づくり協会の存在する意味でもあります。皆さまに会費を集める意義のご理解を戴きますようお願い申し上げます。

年会費

個人会員	3000円
賛助個人会員	1000円
団体会員	3000円
賛助団体会員	1000円

会員にならうと思う方は、役員にお申し出ください。

第2回 大原10名山登山会 焼杉山と翠黛山に



5月13日（土）、少し空模様のあやしいこの日元気者の小学生6人を含み、20人でまず焼杉山にかけ上り、下山途中に翠黛山寄るといいう行程で全員無事、雨にも会わずに下山できました。

▲次回の日程が変更されました▼

× 9月23日（祝・土曜）
○ 9月18日（祝・月曜）

第3回10名山登山会は9月23日（祝・土曜）を計画していましたが、学校行事と重なるため9月18日（祝・月曜）に変更します。次回登山会は9月18日峰床山登山です。

いま 京都大原学院で

大原学院にベトナムから来校

5月17日(水)ベトナムのインターナショナルスクール「日本国際学校」の5年生24人が、京都大原学院に来校され、京都大原学院の5年生と交流を行いました。日本国際学校は、2016年にベトナムの首都ハノイに設立された私立の教育機関です。幼少期から日本語や英語などを教え、約500人の児童・生徒が勉強しています。担任の先生や引率の先生も日本の方でした。学童クラブの多紀先生が、21年まで副校長を務めていらっしやったご縁で、この度交流が実現しました。

最初に、京都大原学院の多目的室で交流を行いました。お互いに自己紹介をしたり、ベトナムの紹介やクイズを日本語で行っていたり、名札を作ったりするなど、グループに分かれて活動を行いました。その後、場所を変えて、学校の田んぼで5年生同士、交流田植を行いました。みんな泥んこになって、



大変盛り上がり上がっていました。晴天に恵まれ、充実した時間を過ごすことができました。来校されたみなさんは大変喜んでくださり、来年以降も是非交流を続けたいと好評でした。大原学院の5年生は、ベトナムに興味をもった学院生も多く、将来是非行ってみたいと話してくれました。当日、読売新聞からの取材があり、翌日の朝刊に記事が掲載されました。多くの方にご尽力いただき、交流を大成功に終えることができました。

移住者の声

大原の土地に一日も早くなじみ、充実した日々を送って頂くよう、紙上を通じて交流し、大原への思いを寄せて頂きました。皆さまの投稿をお待ちしています。(西田誠)

☎090-4649-0633
✉2916nishida@gmail.com

上野町 高田深幸



大学生になって最初の夏休み、福岡から京都に出てきた私は、京都の寺社巡りをしようと思いつきました。最初に訪れたのが大原でした。真夏で観光客は少なく、緑に囲まれた三千院、勝林院、来迎院、宝泉院を訪れたあと、里道を歩いて寂光院に向かいました。寂光院本堂が火災で焼失した数ヶ月後のことだったので、再建への心ばかりの寄付金を箱に入れて後にしました。色々な寺社を訪れた中で、大原はお寺単体の面白さだけでなく里全体の景色や雰囲気、記憶に残る場所、私の中で特に思い出深い場所となっていました。

2008年春、大学時代からの付き合いの夫と農業をすることになり、京都近辺で就農地を探す中で、ご縁があり就農候補地として大原を訪れることになりました。里の駅大原開設直前のことで、農

業目線では面白くなりそうなの場所だと感じたのが大原に決めた主な理由にはなりませんが、大学生のときに来た大原で暮らしてみたい!という個人的な気持ちも盛り上がったことも決め手の一つになったように思います。

上野町に移住して15年目、子どもたちは京都大原学院7年生と4年生となりました。長男は小野山わらんべ開設時に入園、兄弟ともに地域でお世話になりました。おかげ様で元気に育っています。夫と私も、時には近所の方々や大原の友人と集まったりしながら楽しく過ごしています。

夫と私は大学では共に歴史を勉強していました。移住当初から上田壽一さん主催の大原古文書研究会に関心を寄せつつも長らく参加できませんでした。上田さんに相談させてもらい、昨年春から毎月1回日曜日、高田宅にて上野町に関する内容を中心とした古文書研究会を開催していただけるようになりました。移住してある程度の年月を経て改めて大原の歴史(祭祀、文化、自治、経済活動、等)を学んでみることで、大原の魅力について以前よりも深い視点で考えるようになった気がしています。多くの人々を魅了する大原の景色や環境の良さは、長い年月田畑や山を保ち活用して生活してきた人々の営みの積み重ねにより残されてきたのだなあと感じています。個人的には約20年ぶりに歴史を勉強する面白さが再燃しており、時間の捻出には苦慮していますが、大原でやりたいことが充実してきた感覚を持つこの頃です。

三千院・御懺法講



4年ぶりのニギワイ 大原の里 復活・改善・発展



2020年2月、新型コロナウイルスがこの国に上陸、クルーズ船・三密・新しい生活様式・自粛・緊急事態宣言、入学はしたが休校の日々。また、不幸にして病の床から家族との最期の別れもかなわず逝った人たち、沢山の悲しみがありました。長い三年間が経過、五月の連休明けからコロナ禍以前の生活が戻り始めました。大原にもニギワイが戻って来ました。そのニギワイを特集しました。コロナウイルスが居なくなったわけではありません。何をやるにせよ注意していきましょう。

四年ぶり大原に
ニギワイが戻って来た!!



京都大原学院運動会

江文祭
大長瀬祭



大原女装束時代行列

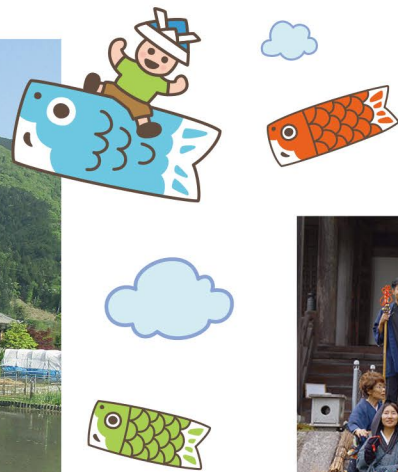


消防団総合査閲訓練



稚児たちも育て育って 大原女

神輿と歩む 大原の里



大原住民の高齢化を考える

高齢者の日々の課題

突然振りかかる転倒や循環器系の自分自身が発する出来事。外からの経験したことがないほどの大規模自然災害や特殊詐欺等々。そうして十人十色のイロイロなこと。いよいよ人生の第4コーナー「人は一人で生きられない」「孤立するが孤立せず」このページを「高齢者の情報交換の場」にしたいと思います。皆さんと高齢者のテーマを語り合いたいと思います。投稿をお待ちしています

老人閑話

井出町 池田定男



春は「山笑う」、夏は「山滴る」、秋は「山粧う」、冬は「山眠る」。「春夏秋冬」四季の、山の情景をうまく表現した言葉である。俳句の季語としてもよく使われる。

話が横道に逸れた。俳句のことを書きたくて、この文章を書いているのではない。木、樹木、林、森、山林等々。関連があるので冒頭に書きだしたに過ぎない。

私事で恐縮だが、街へ買い物に行く。あるいは何か、用事があつ

て京都の市街地へ向かうとき、大原からR367を南に下っていく。いまの季節ではさほど目をひくほどの山でなく、なんの変哲もない、ただの山である。ところがこの山も、新緑に向かう頃、3月半ばから4月中旬辺りか。

登山口のバス停から200mほどの直線を過ぎると、両脇から樹木が覆いかぶさり、道路が左へとカーブする、その瞬間、視界が開ける。高野川を挟んで右側に見える低い山、瓢箪山という。そこは全くの雑木林だが、四季折々の風景がすばらしい。生えている樹木はコナラ、ヤマザクラ、スギと云ったもの他にもいろいろあると思う。山裾はほんわかとした萌黄色なのに、そのなかにある黒いスギが自性生えで、その配置はまるで水墨画のように見事に自然と調和している。

もうひとつ、こころ惹かれる樹木の風景がある。三宅八幡から大原へむかってR367がゆるやかな上り坂。右側のホテルを過ぎ、八瀬遊園にむかって大原へ上がってくるところ。ちょうど比叡山に登るケーブルカーの駅周辺。こちらの風景は登山口に比べて樹木に年輪が入っている。広葉樹ではモミジ、ケヤキ、ムクノキ。常緑樹ではヒノキ、スギ、カシノキ等。共にみな樹高が高く、枝ぶりも大手を振ったように横に広く伸びている。季節前に、まずモミ

ジがぼーっと、薄紅のようにうっすら赤くなってくる。この赤き加減が形容しがたいほどに愛おしい。心がほっとするような、束の間の時間である。

さらに、それは駒飛橋を渡り、精華高校のグラウンドを通過して、右カーブの陸橋へ至る辺り。前方山間に比叡山から続く水井山が、ちょっと尖って見える。木枯らしが吹く冬のさむい日、帰途を急ぐなか、この山の頂きに雪が白く光る。山間を鋭角的に切り開いたような、この風景もまた雑念を振り払うような、こころ惹かれる風景である。

以上、これら紹介した三つの風景は、大原から街へと行き来するひとの目に映り、留まるであろうか。私のまわりには同じ事を感じ、話したときに「ああー」と小さな溜息を洩らすひと。「やっぱり」と共感、同胞意識のような安堵感を滲ませるひと。同じことを言う、或いは感じる知人。友人が身近にいることに、私自身こころ持ちを強くする次第である。

「骨まで愛する」

ダンス



草生町 山下正和

大型連休の旅行中に昔の同級生からメールで、「少子高齢化に伴い、

我ら団塊の世代は如何に生きるか」についての文章を求められた時、これは『ダンスの神様』のお膳立てかな？とふと感じました。

なぜ急に「ダンス」の話が出てくるのかというと、実は私は、IOC傘下の世界的なダンス組織からその資格を認定された指導員で、最近ではダンス界がもう少し何とかならないかと考えていたからです。こう言うと、何であいつがダンス？と旧友が訝しがるほどの私ですが、70歳を超えてからプロの先生です。

ダンスと言っても様々なものがありますが、私のダンスは「ボールルームダンス」と呼びます。聞き慣れない言葉ですが、もう一つ上の世代が見様見真似で適当に踊っていた社交ダンスの正式版だと思ってください。

さて、少子化のこれからのどう生きるかと問われれば、いつまでも自分の足で歩き、自分のことは自分でやって、若い人の足手纏いにならないことが一番でしょう。そのためには、情緒の安定も大切ですが、やっぱり身体を鍛えなければなりません。当然、無理をすれば壊れる年代ですから、適度の運動でいいのは当然です。だから若いダンスの先生は「筋肉を鍛えるにはダンスがびつたりですよ！」などと勧誘しますが、私はもう少し進めた考えも持っています。

実は、ボールルームダンスは骨も

動かすのです。例えば、胸のあばら骨は固く、ガツチリと動かないと思われがちですが、あれは実は軟骨でできていて、骨と骨の隙間を縮めたり広げたりできるのです。そのようにして踊るのが正しく、しかも綺麗に見えるのです。

骨を動かすことは多分凄いなことなのでしょう。昔から落ち込んだ人には、「上を向け」とか「胸を張れ」とよく言いますが、そうすることによってあばら骨の間隔が開き、新しい力、エネルギーが入ってくることを昔から人々は知っていたのでしようね。あばら骨は漢字では肋骨と書きますが、肋という字はズバリ、肉月に「力」です。漢字というのは本当にスゴいなあと私はいつも思っています。ポールルームダンスはそんな運動を、音楽や人との交流を楽しみながら、しかも適度にできるのです。病も逃げて行くかも知れません。

あと10年、20年をなるべく自分の力で動きたいものです。ダンスだけが良いとは言いませんが、正しく試してみたい人には手助けをしたいと思えますし、大原が様々な活動の聖地になればいいなとも偶に思いますね。

大原の道標 その四

大原古文書研究会
上田 壽一



奉納 昭和五年三月吉日
山下 浅次郎

大原村社 江文神社御旅所

各町の辻などに建っている石造りの道標を調べてみた。長い風雪で判読不明のものもあるが、よく目にするものから調べてみた。

花尻の森の前にある二メートル近い石碑である。

この方は、山下浅継さんの祖父にあたる人で、大原村役の助役でなかったかと思われる。浅次郎さんの息子さんは、石材店をやっておられたとかでその関係があったのかもしれない。しかし、当時としては大変な出費であったと思われる、先人の行為に頭が下がる。

(編集者注) この記事の前の文、寄稿者山下正和さんの曾祖父にあたる方が奉納された)

古民家食堂 久五郎



久五郎ランチ 2,000円(税込)

季節の野菜や山菜を使い身体に優しいヘルシーランチ。毎週少しメニューが変わります。



日替わりランチ 1,000円(税込)

少しカロリーアップ！前日メニューが決まります。季節の野菜もしっかりお付けいたします。

大原の旬の野菜を使った料理で「身体にやさしい、安心して食べられる」をコンセプトに、食を大切に、添加物の無い安全な食材選びまでこだわっております。古民家食堂久五郎に来て頂いたお客様に手作りの母の味を楽しんで頂きたい…。

京都大原、寂光院近く
大原の四季の移ろい
BGMは鳥の鳴き声…？
ゆっくりと時間が流れる
隠れ家のような場所



京都市左京区大原草生町67番地

営業時間 11:30～ 電話 /075 744 2682 携帯 /090 2049 2554

定休日 不定休 電話にてご予約承ります(2名様～)

P有り

◆パート・アルバイトさん募集◆

時間給:1,000円(土・日のみ 11:00～14:00 賄い付)



れんさいマンガ
* 84 *
アズマツネオ



「大原文化センター」開設!

去る3月末で閉所したJ A京都中央大原支店の跡地は大原文化センターとしてスタートしました。

4月22日(土)約50名の参加者で、オープニングは無事終わりました。特にオオムラサキの公演会は、よかつたとの声が多く寄せられました。今後共オオムラサキ保護活動は、当センターとしても支援してゆきます。

この文化センターは大原自治連合会他大原の諸団体によって支えられています。ご自由にお使いください。一階は展示場・図書室としてくつろぎの場。二階は会議室と資料保管室。まだまだスペースはあるので提案をお待ちしています。

企画展示

6月
型紙師の作品展
7月
惟喬親王パネル展

■ 開館時間

10:00

～ 17:00

■ 休館日 月曜日

(祝日を除く)



詳しくは「大原文化センター・山下勉」までお問い合わせください。

大原で古民家探しています

■ 投稿者 大野敦子

こんにちは!京都市在住の大野です。大原の自然と街からの近さに魅了されました。大原では、貸し農園で無農薬、化学肥料無しの野菜作りを始めました。魅力的な大原で、「食と農」



をテーマにした、長期ステイも可能なコミュニティハウスをやりたいです。1階の共同スペースには、広めのキッチンを置いて、自分たちで育てた野菜や発酵食品を使って地元の人やツーリズムの人と一緒に、共同クッキングする拠点として活用したい。大好きな京都で仲間と、ウェルビーイングを目指して活動したいです。貸し家、売り家問わず、空き家情報があればお知らせください。できればリノベーション可能な物件で。活動に共感する人と一緒に家作り、夢を実現したいと思っています。

連絡先 hakconnect@gmail.com



バザー用品の提供も受付中です!
お問合せは左記のメールへ
✉ pi-chiku@gaia.eonet.ne.jp
前田明美
受付締切: 8月20日(日)

表紙の横顔

太田眞素己さんのプロフィール

《編集部から》(文責 西田)
少し前から表紙の「私のベストポジション」の写真を絵にしてはと思っていた「高齢者の居場所づくり」のサークルで一緒にする太田さんが絵描きさんと誰かが言っていたのを思い出してお願ひしたら、快く引き受けて戴いた。
丹後地方「伊根町」のご出身。京都市立芸術大学に進学で京都市内へ。若い頃は寺院の曼荼羅の模写も手掛けたと、本業は絵描きでなく、ジオラマやレプリカを制作していた造形家。

大原ミニマルシェ 開催

日時: 9月10日(日)
11:00 ~ 15:00
場所: 大原文化センター (元JA大原支店)



手作り雑貨やバザーコーナーなど
手作り感満載のミニマルシェを開催します。お店のラインナップは来てからのお楽しみ♪